

【鳶尾小学校】説明会における質問・意見等の概要

1 参加人数

日にち	会場	時間	参加人数
令和5年10月15日（日）	鳶尾小学校体育館	10 時～	15 人
		14 時～	5 人
			合計

2 意見提出用紙による意見等提出件数

提出件数	5件
------	----

3 質問・意見の概要

○…質問 ●…意見・要望 △…意見交換会后、意見提出用紙等で提出された質問等

→…質問、意見に対する回答

【質問】

（取組の考え方・進め方・スケジュール）

- 統廃合を実施する具体的な目標年度はいつか。また、廃校後の跡地の使用について、どのように検討していくのか。
- 学級数の状況や学校施設の大規模修繕の時期、学校統廃合における計画策定時点での在校生への影響などを鑑み、時期を決定したいと考えています。具体的には、現在在籍している児童は、統廃合という話がない中で入学しているため、途中で学校が変わることは影響が大きいと考え、そのまま卒業できるようにしたいと事務局では考えています。具体的な計画の策定は令和8年度を予定していますので、ここから6年後の令和14年度を一つの目安と考えています。
- 鳶尾小と上荻野小の2校に統合した場合、7年後に上荻野小が小規模になると資料にあるが、その場合、再度1校に統合されるのか。
- 検討の結果、鳶尾小と上荻野小の2校の敷地に統合とした場合、将来的に再度統合を行うことは、児童や御家庭への負担が大きいと考えますので、現時点では段階的に統廃合を行うことは考えていません。そのため、今後の児童数の推移等も踏まえ、1校にするのか2校維持するのか、検討する必要があります。
- ただ、先日の意見交換会の中で、段階的に統廃合を行う方が良いという意

見をいただきました。そうした御意見や、やはり3校とも維持してほしいという御意見等を踏まえ、更に検討を進めていきたいと考えています。

- 昔のように、荻野小の分校として3校維持する考えはあるか。
 - 適正規模・適正配置の方策としては考えておりません。方策の実施により、通学距離の範囲が超える児童の負担軽減として、スクールバス等の実施を検討しています。
- 1校に統合する場合、資料を読むと荻野小に統合する案が優勢と感ずるが、鳶尾小と荻野小のどちらに統合するのが望ましいか、現時点で事務局の考えを教えてください。
 - 今回、荻野小または鳶尾小の1校に統合、上荻野小と鳶尾小の2校に統合する3つの案を提示していますが、事務局としては、適正規模の観点等を踏まえると2校に統合するより1校に統合するのが望ましいと考えています。その中で、荻野小と鳶尾小とで、どちらかの優位性が高いとの考えは現時点ではありません。敷地の広さを考えると、荻野小より鳶尾小が1万㎡程度大きいので、その点では鳶尾小に優位性があると考えています。
- 3校のうち1校もしくは2校に統合する案では、既存校舎を利用して統合することのだが、新たに敷地を用意して、1校に統合することは検討したのか。
 - 荻野地区に関しては、小学校が3施設あり、それが有効に利用できる状況であります。地域内でスクールバス等の通学負担軽減を図れば、通学自体も可能であると考えます。既存の公共施設を有効活用することが、現在の教育委員会としての考えでございます。

(教育環境)

- 小中一貫教育の推進とあるが、小中一貫教育の良さや、統廃合によってどのような効果があるかなど、詳しく教えてください。
 - 昨今、小学校から中学校に進学する際の環境の変化や、多感な時期ということもあり、学校に通いづらくなるという問題があります。小中一貫教育では、小・中の9年間を見据え、途切れることなく子どもたちの成長を見守ることができるというメリットがあります。小中一貫教育については、施設を一体にする、9年間の義務教育学校にする、授業や行事などで小・中学校の教員が連携するなど、様々な方法が考えられます。荻野地区には小学校が3校、中学校が1校あり、荻野地区のほぼ全員が荻野中に進学す

るため、地域・小学校・中学校の連携が大変図りやすい環境だと考えています。このような長所をいかし、小中一貫教育と適正規模・適正配置の取組とを一体的に進められることができるかを検討し、来年度には具体的な方策を出したいと考えています。現段階では、小中一貫教育を進める上では小学校を1校に統合する方が連携を図りやすいと考えています。

- 小中一貫教育という話が出ているが、小中一貫にする場合、一つの大きな敷地がないと出来ないと思うが、新しい施設を整備しないのであれば、小中一貫教育は出来ないのではないかな。
- 同じ施設内で小学生も中学生も一つの学び舎で学んでいくという小中一貫校のイメージからの質問かと思います。実際には、小中一貫教育を実施するに当たっては、様々な形態を取り得ると考えています。例えば、中学校の教員が小学校で英語を教えたり、重複する校務を連携することで負担を減らしたりということも一つの小中一貫教育の形態であると考えます。施設が一体化しないとできないことも実際にはあるかと思いますが、地域の特性を踏まえ、出来るところから小中一貫教育を進めていくというのが現在の考え方です。また、荻野地区では、荻野中の施設を利用し、一つの大きな荻野地区の学校を整備していくという考えもありますので、今後検討を進めたいと考えています。
- 厚木市では、教職員の人数は足りているのか。今後の推移などを教えてほしい。
- 教職員数は、基本的には学級数に応じて配置されます。産育休などの代替には臨任の教員が充てられる場合があります。
- 教職員の多忙化について、統廃合により校務負担や雑務的なものが減ることだが、教員が具体的に授業以外でどのような仕事をしているのか聞きたい。
- 教職員が子どもたちに直接関わること以外の業務では、PTAや地域活動に関することなど、多岐に渡ります。運動会や行事、中学生の定期テストの数などや、教員が担う各教科の部会や研究会の校務数については、学校の規模に関わらずほぼ同じになります。小規模校で教員の数が少ないと、同じ教員がいくつも校務を担当する必要が出てきます。また、学年当たり複数の学級がある学校では、ベテランの教員に新人の教員が教わりながら授業や学級運営を進めることなどもできますが、単学級の学校では、経験の浅い教員が一人で全てを担当することになります。教育に係る経験や技

術の伝承などについても、ある程度学校規模が大きいと、スムーズに進むものと認識しています。

- 校舎の建て替えにはどのくらいの期間が掛かるのか。
- 通常、計画期間として3年、工事期間として3年、通算では6年程度を見込んでいます。現在建て替えを進めている依知南小や緑ヶ丘小では、建て替え工事期間中は仮設校舎を整備し、利用しています。

（通学関係）

- 通学の安全対策について、具体的にどのように検討を進めているのか教えてほしい。
- 毎年度、教育委員会で通学路の危険箇所の聞き取りを行っています。例えば、横断歩道の塗り直しや、カーブミラーの設置、スクールゾーン導入の検討など、集めた情報を基に対策を講じています。また、小学生と中学生では、「自分で自分の安全を守れるか」という点で判断力に違いがあると認識していますので、統合などにより通学区域が変更になる際には、児童の目線で改めて安全対策を進める必要があると考えています。
- スクールバスの具体的な運用方法等が定まっていれば教えてほしい。また、現在、鳶尾で運行されているコミュニティバスを活用する考えはあるか。
- 検討段階ではありますが、現段階ではマイクロバス程度の大きさをイメージしています。下校時間などは学年により異なりますので、それを踏まえて運行本数などを検討していきたいと考えています。
コミュニティバスとの併用については、検討は行っておりますが、そもそもの運行目的が異なることや、各バスの法令上の違いがあることなどの課題があることから、その辺りを含めて慎重に検討する必要があります。
- 荻野小の敷地に統合となった場合、現在より通学時間が長くなり、スクールバスを利用する児童がバスに間に合わない場合などにおいて、保護者が自家用車で送り迎えをする機会が増えることが考えられる。学校付近の道路や敷地の広さを考えると、駐車スペースや安全性に不安を感じるが、対策はあるか。
- 自家用車での送迎につきましては、現在も原則、認められていませんが、例えば体調不良時のお迎えなど、車で送迎が必要となる場合などにおいて、そのようなニーズが増える可能性は大きいと認識しています。現段階

で、具体的な方法は決まっていますが、今後、スクールバスを運行する場合、バスの発着場等の整備も必要になりますので、駐車場等についても、併せて検討していきます。

(その他)

- 学校の統廃合について、先進的な取組を実施している事例があれば教えてほしい。特に、統廃合を行う場合、どの程度の時間を掛けて検討しているのか知りたい。
- Q&Aの8ページに、県内に統廃合を実施した事例等をお示しさせていただいておりますが、これ以外にも複数の自治体で同様の取組を進めていることです。来年度以降、方策の方向性を示す際には、他の自治体の事例も御提示させていただきます。
- 市街地はマンションが建設され、人口は増えていると聞くが、実際はどうか。
- 市街地では近年複数のマンションが建設され、児童も若干増えていますが、推計によると、そのような地区でも令和10年頃には児童数は減少が始まる見込みです。
- 放課後児童クラブについて、学校が統合されるのであれば、同じように人手を増やさなければならないと思うが、どのように検討しているか。
- 具体的に確定している内容は現段階ではありませんが、放課後児童クラブについては保護者の方の関心が大きいところですので、具体的な方策の方向性をお示しする段階では、放課後児童クラブに係る考え方もお示しできればと考えています。

【意見】

(取組の考え方・進め方・スケジュール)

- 3校とも残してほしい。小規模な学校にはメリットもある。教職員は大変だが、大変なりに勉強し、経験を積むことができる。クラスの児童数が少なければ、教員の目が行き届くし、教員も楽であろう。統廃合の理由として、財政上の理由など、大人の都合が大きいと感じる。子どものことを最優先に考え、3校とも残してほしい。単級でも、適正規模の範囲を逸脱していないのではないかと。今後、アンケートを取る際には、統廃合に賛成か反対かという項目を入れてほしい。また、今回統廃合を行い、学校が減ったところで、将来的に団地などの大規模開発が行われ、人口が増えた際に

また小学校を増やす、ということが起こるのはおかしいので、もっと計画的に進めるべきだ。

- 小規模校と大規模校におけるそれぞれのメリットやデメリットを整理した上で、基本方針を策定しました。アンケート結果において、小規模校では6年間クラス替えができないことの弊害など、無視できない問題もあると考えていますので、様々な観点から検討を進めてまいります。
- 適正規模・適正配置の検討を進めるに当たり、教育委員会では、子どもたちの教育環境が一番大切だと考えています。令和4年度に実施したアンケート調査では、方針で定めた12～24学級という適正規模の範囲について、9割程度の方が「妥当である」と回答していただいています。また、クラス替えの必要性についても、9割程度の保護者の方から「必要」又は「どちらかといえば必要」と回答していただいています。そうしたことも踏まえ、方策の方向性を検討しているところでございます。

(教育環境)

- 現在入学している児童はそのまま卒業まで元の学校に在籍するという話を聞き、統合前の直前は6年生だけになることを考えると、早めに統合する方が良いのではないかと思った。
- 現段階では、例えば令和14年度に統合を実施する場合、廃校になる学校の児童がその学校に残るのではなく、統合の年度に一斉に統合先の学校に移ることを想定しています。
- 小学校で勤務した経験から、教職員の負担面について話したい。小規模の学校では、教職員が少なく、担任・校長・教頭が授業に入り、職員室に教員が誰もいないという状況があった。校務負担も重く、子どもたちのために教材研究する時間が取れなかった。また、学級数が少ないと、新人の教員も一人でその学年を担当しなければならない状況になる。複数学級があれば、ベテランの教員と学年を組み、アドバイスをもらいながら学級運営を進めることができる。教員の授業力や対応力を向上させるには、ある程度の学校規模が必要なのではないかと思う。それが、子どもたちの学校生活に還元されていくのではないか。通学時間や通学の安全性も、もちろん気になるところだが、子どもたちが過ごす時間の大半は学校内での生活なので、その環境を整備するのが大変重要だと考える。人間関係やグループが固定化し、問題があった際にも、クラスを組み直してリセットすることができないと、不登校や転校を余儀なくされるケースも実際にある。地域とのつながりや今までの伝統を重んじながら、また、学校が遠くなること

での保護者の負担についてはスクールバスなどを活用していただき、子どもたちのために良い環境を作ってほしい。

- 教職員の負担について、愛川町で学習サポーターを務めているが、厚木市ではそのような補助の人員が少ないのではないかな。
- 本市でも、学力ステップアップ支援員や特別支援介助員を学校に配置しています。市長部局の理解もあり、予算も多く確保していますが、特に特別支援介助員については、応募が少ないのが現状です。学校からの要望を踏まえ、充実させるよう努めています。
- 自分自身の経験として、規模の小さな小学校から、1学年4学級ある中学校に進学して、中学校で初めて関わる友達との関係など、様々な経験ができたと思っている。小中一貫教育の良さは理解したが、人間関係を構築する上で、地区に小学校を2校維持し、中学校で新たな出会いがあるのはメリットが大きいと思う。
- 市全体の子どもの減少率が44%であるのに対し、荻野地区は64%と顕著になっている。今日の説明で、荻野から新しい教育を始めるのだ、という意気込みをいただいたが、具体的なイメージがわからない。魅力ある教育をし続けるということは、とても難しいことだと思う。児童が増えるときは予算も増えるので新しいアイデアが出せるが、人口減で税収が減る中では、難しいのではないかな。教育委員会はもちろん、教員や地域も相当の決意と責任をもって取り組まなければならないと思う。
- 新しい学校のイメージについてですが、荻野地区の特徴は、荻野中を中心に3小学校があり、ほとんどの児童が荻野中に進学します。地区と通学区域がほぼ一体となっているため、学校と地域とが連携しやすい環境だと考えます。適正規模・適正配置を進め「ヨコ」の人間関係を豊かにすること、小中一貫教育を進めて9年間を見据えた「タテ」の教育を行うこと、また、地域の方に入っていただき、課題を共有しながら取り組む「地域とのつながり」の深化を一体的に推進する教育を考えています。

(地域づくり・地域コミュニティ)

- 昨年、荻野地区に引っ越してきたが、それは、家と小学校が近く、通学路が整備されていることが大きな理由であった。小学校がなくなれば、「この辺りに住むのはやめておこうかな」となり、地域の過疎化がますます進んでしまうだろう。鳶尾は既に高齢化が進んでいるので、より寂しくなっ

しまうと思う。

→ 荻野地区に限らず、市内でも人口減少が進んでいる地区があります。その中で、地区ごとに生活機能を維持するため、厚木市内 15 地区にある学校を、地区ごとに維持する方向で検討を進めています。荻野地区で学校を維持していくため、教育環境や児童数のバランスを考えつつ、2校または1校、あるいは3校とも維持するのかをお示ししたいと考えています。また、第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の施策として、本市として定住促進や雇用の創出、合計特殊出生率の向上などに取り組んでいるところです。こうした施策と合わせて取り組んでいく必要があると考えています。

- 統廃合による地域コミュニティの拠点機能の低下は大きな問題だと思う。公共施設の再整備について、児童館や老人憩いの家を集約するなど、地域の意見を丁寧に把握し、コミュニティの拠点を整備する必要があると思う。

【意見提出用紙による意見等】

（取組の考え方・進め方・スケジュール）

- △ 検討スケジュール内、検討期間において、意見交換会又はアンケート等により意見を求める機会を今以上に増やして、検討スケジュールをダラダラせずに進めるようにしていただきたい。
- 取組を進めるに当たっては、関係各方面への影響を考慮し、保護者の皆様や地域の皆様の御意見を丁寧にお伺いしてまいります。一方で、児童の教育環境の変化や施設の老朽化等は進んでいくため、十分に御意見を伺いつつも必要なスピード感をもって取組を進めてまいります。
- △ 今後の方針次第で三田地域の小学校への入学も考えている。1校統合、2校統合でも具体的な教育方針やメリットを最大限伝えていかないと、荻野地域の学校に通うメリットがあまり見いだせないかなと思うので、今後の皆様の取組に期待している。本日はありがとうございました。
- 方策の方向性について今回いただいた御意見も踏まえ、更に検討を進めさせていただき、案を一つに絞り再度、意見交換会で提示させていただきたいと考えております。その際には、取組実施により見込まれるメリットや具体的な取組手法等についてより明確にお示しできるようにしてまいります。
- △ 日頃より学校教育及び地域での説明会等御尽力いただきありがとうございます

ます。さて過日、鳶尾小にて開催された説明会の折は、質問や意見を述べさせていただき、ありがとうございました。1人1件ということで、個人的に意見や質問がたくさんあったが、当日は最低限にとどめたので、説明会の折に語れなかったことをアンケートに書かせていただく。最近の地域の方々の話では、最初に統合ありき（統合は決定事項）で、どのように統合するかを調整中であるかのような話が広まっている。それもそのはずで、説明会の資料の中は、統合のことばかりで、荻野地区の3校を残すことのメリットやデメリットの記載は一切なく、統合する場合の案ばかりのため、地域の人たちもそのような認識になるのだと思う。話し合いの順序としては、普通は、①統合の是非（3校とも残すのか統合したほうが良いのか）の議論を最初にすべきで、②統合するとしたらどのようにするのか、の順で話し合いを持つべきだと思う。地域の方々の誤認識も①の議論がないまま②の説明や話し合いになっているのが原因だと思う。そのため、資料やアンケートには3校とも残すことは可能であるとの明記が必要だと思う。次に、私は3校とも残すことに賛成だが、3校残して小規模化した場合のデメリットの中で2つ提案がある。1つ目は、教員の仕事の負担についてである。確かに現行のシステムでは小規模校での教員の校務分掌上での実際の負担や精神的負担は多いかもしれない。しかし、人員配置については「子育てのまち 厚木（＝教育のまち）」を目指す厚木として、教育予算を増額して、単級の学年には副担任をつけるくらいのことでもよいのではないかな。又は、小規模校には特別枠の教員を増員してもよいと思う。全国的少子化で学級数が減ると教員の総数も減ってくるわけで、人件費も減り、予算がそのままなら余裕も出てくるはずなので、学級数が減っても教員数を減らさなければ人員にもゆとりが出るはずである。ただし現行制度での市の非常勤等は時間給でのアルバイトのようなもので勤務時間も少なく校務分掌も持てないため、臨時的任用職員と同じくらいの身分の教員が必要である。教員のなり手が少ないという話もあるが、教員採用試験の倍率は3倍くらいあり、教員になりたい人の3人に1人しか採用されない。あとの2人は、泣く泣く他の職に就いたりしている。それを考えると採用の仕方や人事行政の在り方を見直す必要があると思う。また、20年くらい前に導入した免許更新制度により予想では数十万人程度の人が免許を失効していると思う。一身上の都合で一旦職場を離れた人や採用試験に落ちて他に就職したがやはり教員になりたいと思った人が研修を受けられずに免許を失効した例は多いと思う。その結果、臨任、非常勤をできる人がいなくなり、東京では無免許でも採用する事態になっている。研修は、この辺だと横浜に何回も通い、受講費用負担もあるため、現職の教員でなければ受けられない。将来の学級減を見越して、新採用を控えて、臨任、非常勤

で対応するのではなく、多少余りぎみでも本採用を増やし、小規模校対策としてはどうか。2つ目は、クラス替えの必要性についてであるが、現場ではいじめ等の問題で仲が悪い児童生徒をクラス分け時に別々のクラスにして解決しようとする逃げの対策にとどまっているところがある。教員の資質や学校の対応が問われる部分でもあるが、それはそれとして、小規模校や単級の学年に対しては、20 人学級（又は 25 人学級）とかの措置を講じれば、1 学級の学年も 2 学級になる可能性が増し、その結果、教員数も増え、校務分掌上の負担も軽くなると思う。いじめや不登校の問題も含めて、少人数でのクラス編成は、これから必要になる。以上のような現行制度の中だけでの統廃合ではなく、教育制度全体の見直しも含めて、教育総務課のみならず、市教育全体、県教委、文部科学省、市の都市計画なども連携・勘案しながら、「新しい厚木の教育」を全国に先駆け模索していただきたい。まずは、統合ありきという地域の方々の誤解を解いていただきたく、長々と書き綴ったが、よろしくお願いしたい。

- 御意見のとおり、現時点で荻野地区の方策の方向性については決定事項ではなく、3校を維持していくという考え方も取り得るものと認識しています。一方で、昨年度実施した説明会でいただいた御意見及びアンケートの結果等を踏まえ、児童の教育環境を考慮すると、学校の統廃合をした方が望ましいというものが教育委員会の考えです。具体的な考えとしては、長期的な推計でも児童の増加が見込まれないこと、地区内の全ての小学校が優先的対象校となる見込みであり、かつ、適正規模と児童数のかい離が大きいことが挙げられます。そうした中で、今回統廃合を実施する3案をお示ししたものです。今後取組を進めていく上では、検討状況等も含め御理解いただけるよう十分な周知、説明の実施に努めてまいります。学校の教職員については、県の予算において、県の教職員が配置されています。配置される教職員が減ったからといって、本市の財政に影響を及ぼすものではありません。一部の小規模校のみ特別に教員を増やしたり、少人数学級を実施するということは市民サービスの公平性が損なわれるおそれがあるため、慎重な検討が必要だと認識しています。なお、少人数学級については児童の学習環境として望ましいものと認識していますので、県を通じての国への要望を引き続き実施してまいります。

（地域づくり・地域コミュニティ）

- △ 学校の統廃合を進めていくに当たり、地域の魅力が半減しないよう、地域の活性化や荻野地区への定住対策に力を入れてほしい。
- 学校は地域防災の拠点、児童・生徒の放課後の居場所・活動場所、地域の活

動・交流の拠点など、地域コミュニティの拠点施設として重要な機能を担っているものと認識しております。新しい学校づくりを地域の活性化につなげていくことはもちろんのこと、学校統廃合が、地域コミュニティの衰退につながることをないよう、学校と地域コミュニティの在り方との関係性や学校跡地の在り方等も含めて、保護者の皆様、地域の皆様と一緒に検討させていただきたいと考えております。定住対策についても本取組により、安心・安全な教育環境を整備することで子育て世帯の定住促進につなげていきたいと考えています。

（その他）

- △ 先日鳶尾小での説明会に参加させていただいた。令和 14 年度の 3 校が単学級になるとか、荻野地区の少子化が激しく進んでいるとのことだった。これから「荻野から始まる新しい厚木の教育」として地域学校協働を推進し、市の教育の先駆けをめざす。と説明資料にもあった。これまで余裕教室の地域活用とか、学校運営協議会の具体的成果などはどうだったのか、まず世間で問題になっている「いじめ」へ対応と教員、教委にとっても難しい課題だが。そして、いま荻野地区の学校は、子どもたちに、教員に、父母、地域の人々にとって、どうなのか、例えば教員に荻野の学校で転勤して働きたい、他地区の父母にとって子どもを選んで入学させたい学校になっているのか、中学生も他地区から荻野中に通学したいとの声はあるのか。また参加者から、バス通学に現在のコミュニティバスの活用の話もあった。答えは、制度の違いからか否定的だったが、地域の方と共に下校時の見守りのかねて、共用なども検討されてもと感じた。
- 学校運営協議会の成果としては教育の充実や学校課題の解決、地域とのつながりの強化というものが挙げられます。具体的には鳶尾小の事例として、新型コロナウイルス感染症への対応として教員が毎日実施していた清掃・消毒などについて、教員の負担軽減を図るため、学校運営協議会やPTA本部、学校の呼び掛けに応じた保護者や地域住民が協力して実施したというものがあり、関係者からは学校との絆の深まり、教員の負担軽減につながったとの声がありました。荻野地区のこれまでの成果と課題を踏まえ、地域から愛され、子どもたちも地域への愛着を深められるような学校づくりを進めるとともに、荻野地区の小学校で学びたいと思ってもらえるような特色を持った魅力ある学校づくりを進めてまいりたいと考えています。コミュニティバスのスクールバスへの活用については、庁内検討組織でも検討をしております。コミュニティバスとスクールバスで目的は異なりますので、まずはそれぞれの目的にあった運行の検討を進め、その上で、共用するメリットが大きい場

合については、共用について検討を進めてまいります。